

令和7年度第2回御所市学校規模適正化推進会議
議事要旨

日 時 令和7年11月19日（水） 10時00分～11時00分
場 所 市役所本館3階 第1会議室
出席者 委員：山内 雅雄、吉村 理、丹下 博幸、鍵本 幹雄、宮崎 奈美、山本 訓子、
吉川 洋也、榊原 美佐、奥田 公夫、春田 晋司、竹内 剛
関係各課：教育総務課 川久保、生涯学習課 坂口、文化財課 木村
事務局：新しい学校づくり推進課 小槻、山本、金山、吉村

内 容

1 開会

2 委員紹介 事務局より今回から委員になられた鍵本委員を紹介した。

3 議事

(1) 御所市立小・中学校に係る新しい学校づくり基本計画策定の進捗状況について
事務局から基本計画策定の進捗状況について説明があった。

(2) 学校施設整備の考え方について

事務局から、アンケート調査結果やワークショップ実施結果の説明があり、その結果を踏まえた施設整備のコンセプト（案）について説明があった。

○主な意見

- ・アンケートにおいて、保護者、地域住民、教職員の思いを細かく吸い上げてもらったおかげで、目指すところが明確になったと感じた。
- ・アンケートにおいて、再編後の新しい学校における教職員の人員配置については十分に配慮すべきであると感じた。
- ・新しい学校での児童生徒間の人間関係構築などについてケアしていく必要がある。
- ・小学1年生での不登校の傾向も見られることや、いわゆる中一ギャップの問題も踏まえると、小中学校間の連携だけでなく幼小の連携も重要である。0歳～15歳の15年間でどのように子どもたちを育てていくかという考え方が重要である。
- ・保護者アンケートの回答が少ないのは、新しい学校の開校時に卒業している世代の保護者については、関心が薄いと考えられるのが原因であると考える。
- ・アンケートやワークショップの結果から、「安全安心（ハードもソフトも）」や「質の高い教育」を求める傾向が強いことが理解できた。また、柔軟性のある諸室設定や保護者と教職員のコミュニケーションなども重要である。

(3) 学校施設の規模と施設計画について

事務局から学校施設の規模と施設計画について説明があった。

○主な意見

- ・5階建ての施設は地域に大きなインパクトを与えることが懸念される。デザイン面での工夫によりインパクトを抑える工夫や、低層化の検討も必要である。
- ・学童施設について、施設規模や現学童の取扱い、送迎が難しい家庭への対応についての懸念が地域から上がっている。

(4) 浸水対策について

事務局から浸水対策について説明があった。

(5) 安全対策について

事務局から安全対策について説明があった。

○主な意見

- ・送迎による自動車交通量が増えることを踏まえ、学童へ向かう際や、登下校時の安全確保を十分に検討してほしい。

(6) 事業スケジュールについて

事務局から事業スケジュールについて説明があった。

(7) 通学方法について

事務局から通学方法について説明があった。

○主な意見

- ・バス通学基準の境目に住んでいる方々への対応は難しい問題だが、どこかで線を引く必要はある。
- ・5年生～7年生を中学年として括る一方で、自転車通学は7年生以上とする点について、理解を得るのに時間がかかる恐れがある。
- ・登下校時の地域の見守り活動について、学校が再編されることによって各地域との連携が難しくなること等が考えられるため、今後の活動方法について検討が必要である。

(8) 今後の取り組みについて

事務局から今後の取り組みについて説明があった。

(9) 今後の日程について

◎今年度の推進会議は今回で終了。来年度以降も開催予定。

(10) その他

11月20日(木)に「未来の学校の在り方」をテーマとした教育講演会が開催される。

4 閉会